

## アーキトレンドに配置する部品の作成

## アーキトレンドに配置する部品の作成

---

1. 3Dカタログマスタ登録 - 基本情報の入力	3
2. 3Dカタログマスタ登録 - 3Dデータの編集	5
3. 3Dカタログマスタ登録 - 2Dデータの編集	12
4. レンダリング結果	16

# はじめに

本資料では、タカショーの「門まわりエバーアートボードプラン48」の3DS形式のデータを使って3Dカタログマスタへ登録する流れを記載しています。



[門まわり エバーアートボードプラン48 | パッケージプラン \(takasho.jp\)](https://takasho.jp)

はじめに、上記サイトから3DSデータをダウンロードします。

### DOWNLOAD

このページのプランデータはこちらでダウンロードできます

<a href="#">パース画像一式</a> >	<a href="#">プレゼンシートPDF</a> >	<a href="#">プラン3Dデータ</a> >
画像データ一式がダウンロードできます。	プラン内容のプレゼンシートがダウンロードできます。	プランの3DS形式のデータがダウンロードできます。 ※ご利用のCADソフトによっては、ご使用いただけない場合がございます。

# 1 3Dカタログマスタ登録 – 基本情報の入力

アーキトレンドにて部品を取り込み配置するには、3Dカタログマスタもしくはアーキマスタへの登録が必要となります。

① 3Dカタログマスタを起動します。

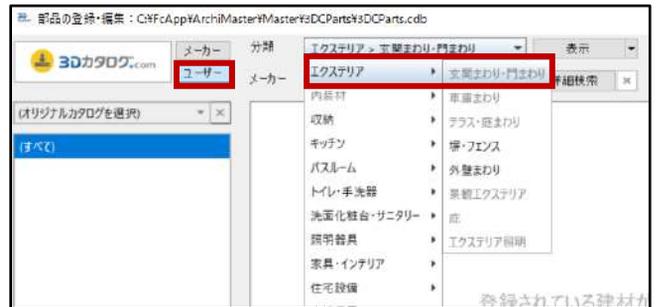


マスタの保存先を選択できます

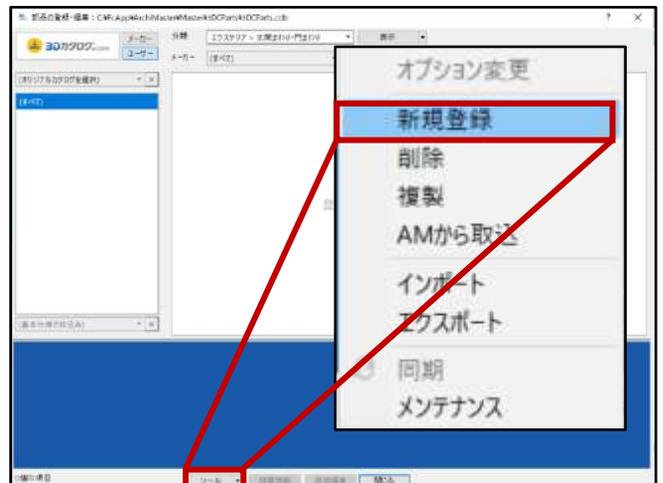
② 「住設・家具」を選択し、マスタを保存する任意のフォルダを選択。その後、「一覧編集」を実行します。



③ 一覧が開いたら、左上の「メーカー」から「ユーザー」に切り替え、作成する部品の分類を決めます。今回は「門まわりエバーアートボードプラン48」を登録するので、分類としては[エクステリア]-[玄関まわり・門まわり]が適しています。



④ 分類を決定後、下部の「ツール」より「新規登録」を実行します。



# 1 3Dカタログマスタ登録 – 基本情報の入力

⑤ 右図のような一覧が出てきます。  
まずは赤枠の箇所、製品・建材の詳細についての情報を埋めていきます。

部品新規登録

製品情報 | 配置情報 | コメント | 性能等級 | \*は必須項目

メーカー \* ユーザー登録 取扱期限

大分類 \* エクステリア 更新フラグ 日付を比較して更新

中分 \* 玄関まわり・門まわり ユーザー1

シリーズ ユーザー2

グループ ユーザー3

製品 \* 門まわり

品名 \* エバーアートボードプラン48

品番

価格 末尾文字

単位

色名称

サイズ 幅 1000.000 奥行き 1000.000 高さ 1000.000

● 簡易 ○ 詳細 □ カタログ ファイル選択...

立体 平面

立体データを設定してください。

平面データを設定してください。

編集 ... \*

バージョン: 0.0.0

OK キャンセル

⑥ 「編集」をクリックし、3Dデータ（以降XVLとします）を作成していきます。

次に出てくる画面の「編集」をクリックすると、「FC Studio」が立ち上がります。

立体・平面編集

立体

編集

削除

縮小画像取得

ファイル選択...

パラメXML選択...

平面

編集

削除

画像表示設定...

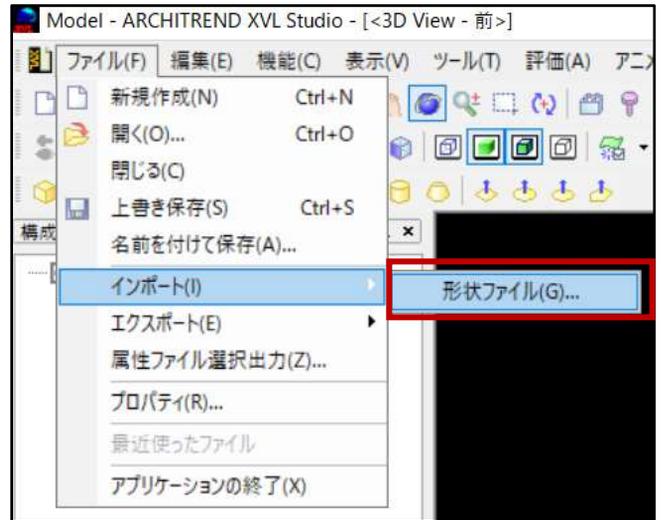
ファイル選択...

● 簡易 ○ 詳細

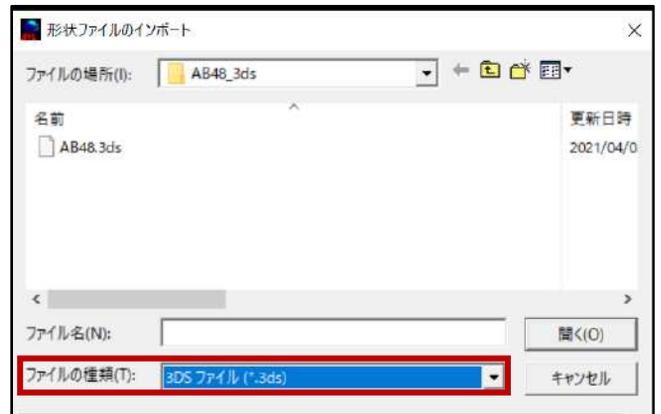
OK キャンセル

## 2 3Dカタログマスタ登録 – 3Dデータの編集

⑦ 立ち上がったFC Studio上で、[ファイル] > [インポート]-[形状ファイル]より、3DSデータを読み込みます。



読み込むデータを選択する際、ファイルの種類が3DSファイルになっていることをご確認ください。



3DSデータを読み込むと、FCStudio上で右図のように表示されます。

データによってはスケールが小さくなっているものや、立体が右図のようにX軸に90度回転されている状態のもの、さまざまです。その場合、スケールや軸を編集する必要があります。

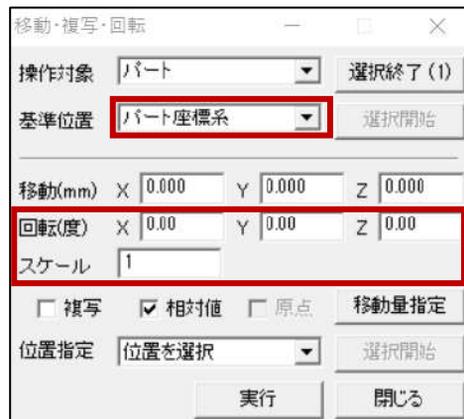
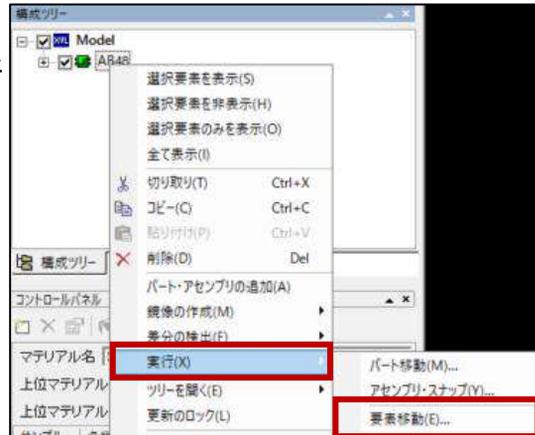
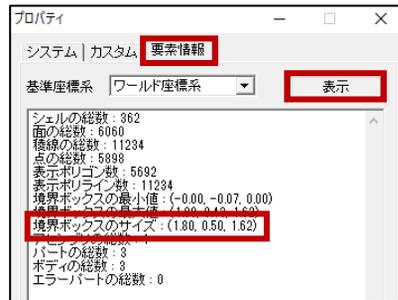
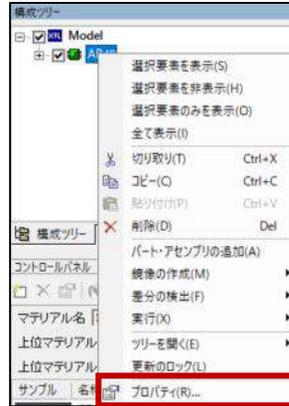


### 補足1 立体情報の確認、編集について

スケールは、立体を右クリック>  
プロパティを開き、要素情報を表示させて  
確認します。

境界ボックスのサイズが極端に小さかったり  
大きかったりする場合、スケールの変更が  
必要です。

立体のスケールや軸の編集するには、  
立体を右クリック> [実行]-[要素移動]を実行し、  
次に出てくるウィンドウで基準位置が  
「パート座標系」になっていることを確認して、  
回転やスケールの調整を行ってください。



### 補足2 FCStudioの操作について

#### 視点操作

視点の回転、パン、ズームはツールバー  から行います。  
色塗りの作業で要素選択を行うとき、ツールバーは無効となりますので、その場合はキー押し+マウスドラッグで視点を操作してください。

【パン】ツールバー  or 「Z」キーを押しながら左ドラッグ

【回転】ツールバー  or 「X」キーを押しながら左ドラッグ

【ズーム】ツールバー  or 「C」キーを押しながら左ドラッグ or

マウスのホイールボタンを回す

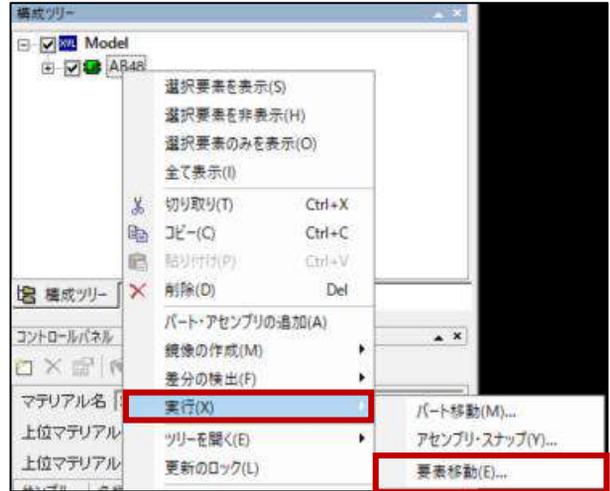
#### 立体の選択

立体の選択には、塊で選択する方法と面で選択する方法があります。  
色を塗る際は塊で塗る方法（シェル選択  ）で塗ってください。

## 2 3Dカタログマスタ登録 – 3Dデータの編集

③前頁補足1の手順でこの立体を確認すると、立体のサイズが実際の1/1000とになっていることが分かります。また、X軸に90度回転している状態ですので、スケールの調整と回転を実行します。

[実行]-[要素移動(または[パート移動])]を実行します。

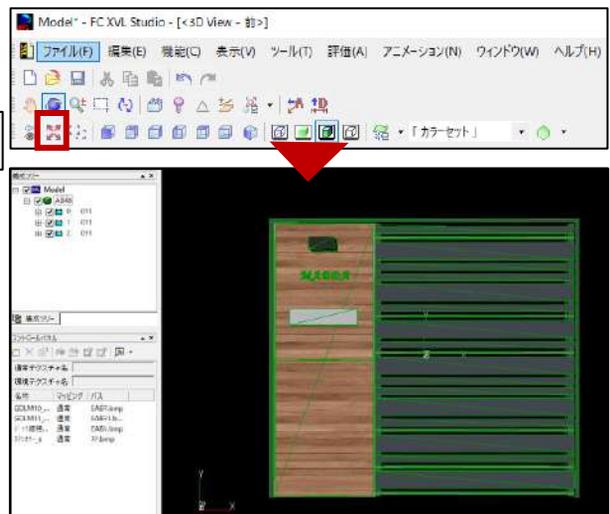


基準位置が「パート座標系」になっていることを確認し、相対値に☑を入れます。回転X:-90に設定し、立体を起こします。

立体のサイズを実際のサイズと同じにするために、スケールに1000と入力し、1000倍のサイズに変更します。



1000倍のサイズにしたことで、立体の全体が画面上から見えなくなった方は、画面上のほうにあるコマンド【表示のフィット】を実行してください。



### 補足3 立体の位置合わせについて

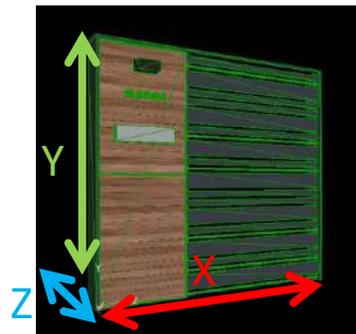
立体の原点位置について、ご自身で任意の位置に設定することも可能です。

前頁の手順で立体を起こした後、  
[機能]> [補助機能]-[全体の位置合わせ]  
を実行します。



次に表示されるウィンドウで任意の原点位置を設定します。

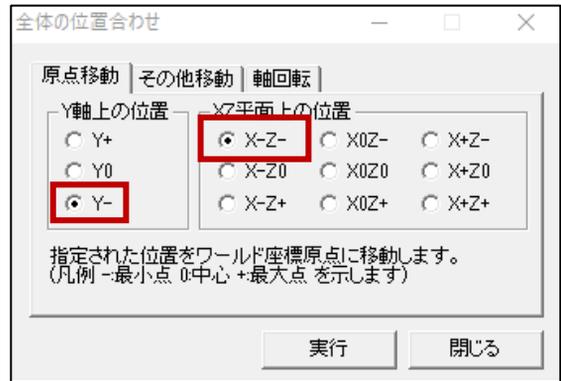
Y線上の位置：  
原点が立体のY軸上でどこに来るかを表します。



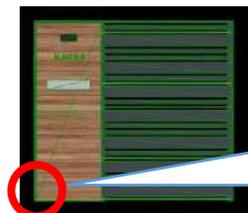
XZ平面上の位置：  
原点が立体のX軸、Z軸でどこに来るかを表します。

例えば

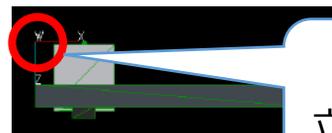
Y軸上の位置：Y-  
XZ平面上の位置：X-Z-



と設定すると、  
原点は右図の位置になります。



正面から見て  
立体の下端にある



真上から見て  
立体の左奥にある

## 2 3Dカタログマスタ登録 – 3Dデータの編集

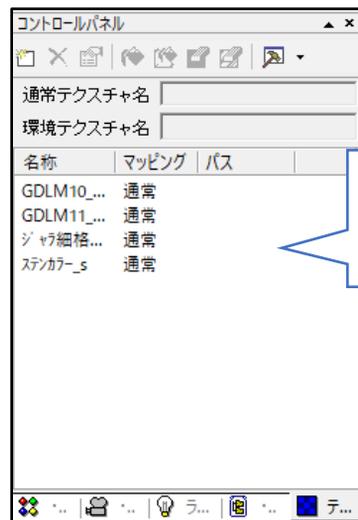
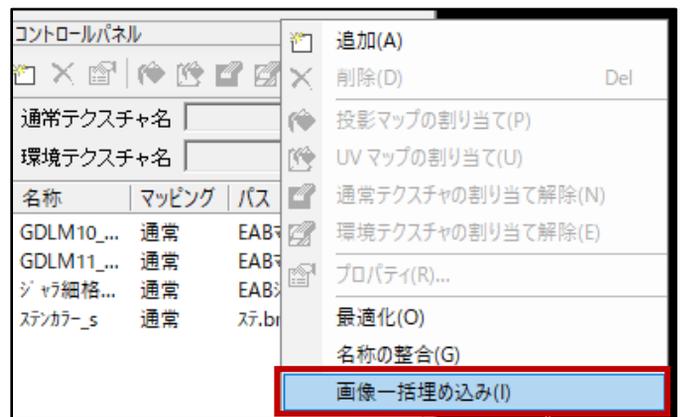
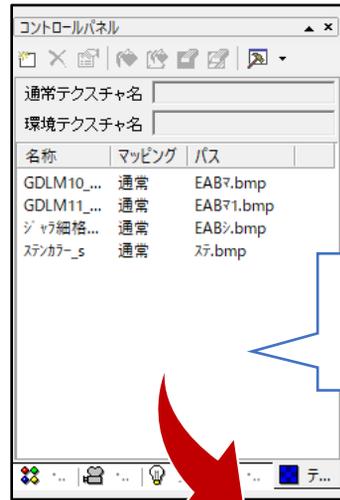
⑨ すでに立体に割り当たっている材料に、質感を与えます。このことにより、CADに配置しレンダリングをかけたときにより現実的な見た目を表現することができます。

例えば、ステンシルバーのときは金属（映り込み弱）に設定します。



## 2 3Dカタログマスタ登録 – 3Dデータの編集

⑩ データの保存先を変更してもテクスチャ画像を正しく参照させるために、画像一括埋め込みを行います。



⑪ 保存をすると、「ファイル名の指定」が出てきますので、任意のファイル名を指定します。



### 3 3Dカタログマスタ登録 – 2Dデータの編集

⑫ 保存したのちFCStudioを閉じると、プレビューが表示されます。

幅高奥行のサイズを、右図のように「数値変更」をクリックし、モデル数値の1を1mmとします。

幅・奥行・高さの情報が適切な数値になっているか確認してください。



⑬ CADに配置した際、平面図や平面詳細図に表示される平面表現を編集します。

編集を実行し、「FC 2D Director」を立ち上げます。

簡易平面図、簡易平面図のクリップ、詳細平面図、詳細平面図のクリップの4つを描いていきます。

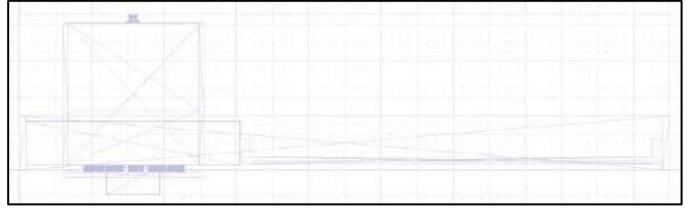


### 3 3Dカタログマスタ登録 – 2Dデータの編集

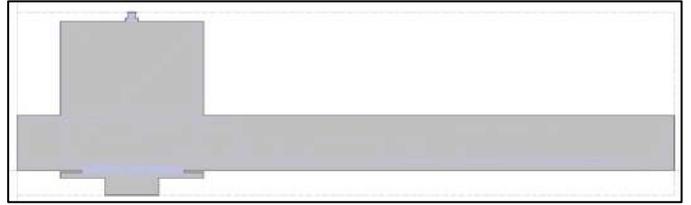
⑭ まずは平面図に表示される「簡易平面図」を編集します。



右図のように、立体がバック図面として表示されていない場合、画面上部にあるコマンドをクリックして、バック図面を表示させてください。



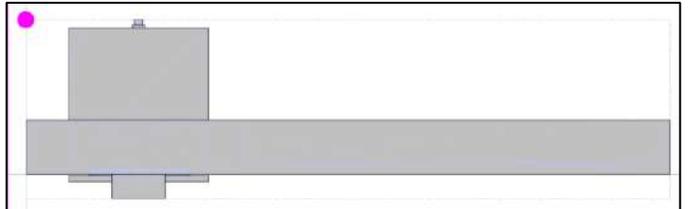
多角円形で立体のアウトラインを描いていきます。



アウトラインが描いたら必要な線を線分で描きます。



⑮ CADにマスタ基準点を参照して配置するときのために、マスタ基準点を配置しやすい任意のところに設定します。

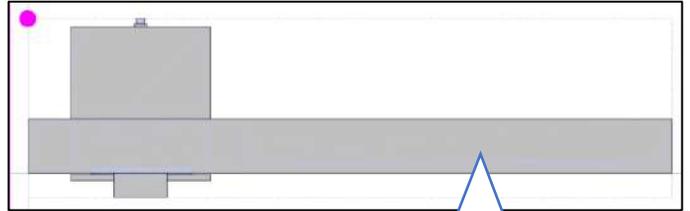


### 3 3Dカタログマスタ登録 – 2Dデータの編集

16 平面詳細図に表示される「詳細平面図」編集に入ります。



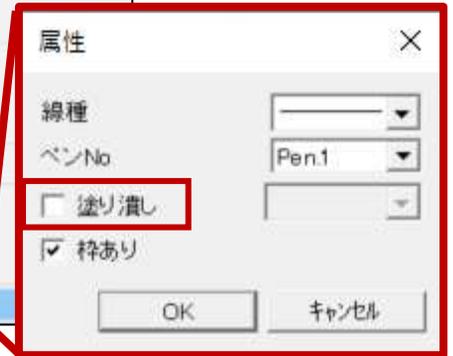
先ほど作成した簡易図をコピーし、詳細図に貼り付けます。



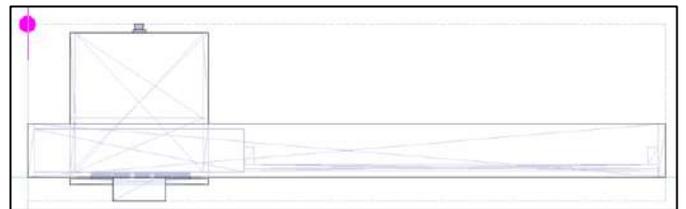
描いた図を右クリック> 属性で、塗りつぶしの情報を消します。



図を右クリック  
します。



線だけの情報にしたら詳細図は完成です。



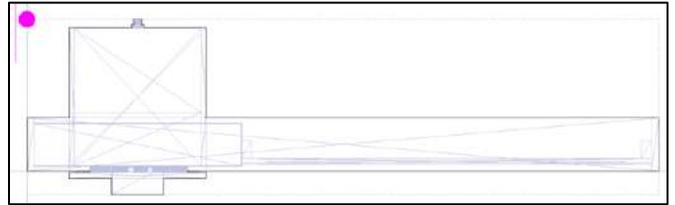
### 3 3Dカタログマスタ登録 – 2Dデータの編集

⑰ クリップを描画します。



クリップは、ハッチングがあり、クリッピング表記をしたい場合、その領域を設定しておく必要があります。

平面図のアウトラインをコピーして、簡易図、詳細図それぞれのクリップに貼り付けをします。



保存して閉じ、マスタ画面に戻りOKを押します。



以上で3Dカタログマスタへの部品の登録は完了です。  
アーキトレンドを開き、部品の選択から配置を行います。

## 4 アーキトレンドでレンダリングをかけた結果

